演習 II

科目ナンバリング　SEM-302
必修　　2単位

宿輪　純一

1. 授業の概要（ねらい）
＜「就職活動」と「社会」に出て役立つ経済・金融・経営の知識“就職”力と“社会人”力を身に付ける＞

①学生は、「日本経済新聞」の主要な記事の内容・意見をプレゼンテーション・ディスカッションする。小職が分かり易く追加解説することによって、「経済・金融・経営分野の実践的な知識」を身に付ける。その後、小職がさらに理論的な解説を加える。

②学生は、「教科書」を順番に輪読する。小職が追加解説することによって、「理論的な知識」を身に付ける。

③学生は、自己分析に基づいた希望の専門分野で「テーマ」を決め、研究し「レポート」（小論文)を作成する。学生は各段階でプレゼンするが、それに対し小職が指導し完成させる。このレポートは就職活動で活用できる。

④学生は、フィールドワーク（校外活動）として、小職が16年行って、日本経済新聞にも紹介された「社会貢献公開講義」（ウエブ・リアル、共に対応）へ参加する。「実務としての知識」を深め、一流企業の社会人と接することによって、就職力を強化する。

⑤学生は、早期より、小職の指導の下、各自「ES（エントリーシート）」を作成し、「面接練習」をする。

経営企画や海外勤務も含めた27年のメガバンク勤務や当局の委員会等で得た「経済・金融・経営全般についての現場の知識」も出来る限り、分かりやすく供与したい。

就職活動にSNSも使われる時代であり、SNSに慣れる為にも、連絡や情報共有は「Facebook」を通じて行なうので、対応して頂く。

この実践的な知識習得と能力向上のプロセスは、長年、面接官をしていた小職からみても、「就職活動」に役立つことは確信している。

＜ 博士（経済学）・エコノミスト・元三菱UFJ銀行(27年勤務)＞

2. 授業の到達目標
就職活動に役に立つ、経済・金融・経営の常識的な知識を身に付けること。
「日本経済新聞」の内容を理解できること。
「教科書」の内容を身につけること。

3. 成績評価の方法および基準
出席の状況、発表の内容、小論文・小レポートの内容、

4. 教科書・参考文献
教科書
宿輪純一　『通貨経済学入門（第2版）』　日本経済新聞出版社
宿輪純一　『決済インフラ入門［2020年版］』　東洋経済新報社
参考文献
宿輪純一・藤巻健史　『円安VS円高（新版）』　東洋経済新報社

5. 準備学修の内容
日本経済新聞の毎日の読み込み、教科書・参考書の読み進み

6. その他履修上の注意事項
講義への出席とまじめな受講態度

7. 授業内容
【第1回】　イントロダクション
【第2回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③自己分析（全員）
【第3回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③自己分析（全員）
【第4回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③自己研究（全員）
【第5回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③自己研究（全員）
【第6回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）
【第7回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第8回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第9回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第10回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第11回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第12回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第13回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第14回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）

【第15回】　①当日の日本経済新聞の記事の発表・討論・解説（2記事）
②教科書の輪読（5ページ）
③論文の発表と指導（5人）